

第1回日本都市計画学会東北支部研究発表会開催の報告

1. 東北支部研究発表会の概要

東北支部では昨年度まで、北東北ブロックと南東北ブロックに分け、学術交流会を開催してきました。過去3回の2ブロック体制の学術交流会は、各教育機関からの冬季の移動負担を少なくすることが狙いの1つにありましたが、北東北（主に青森・岩手・秋田）と南東北（主に宮城・山形・福島・新潟）の間での交流が十分に行えないなどの課題もありました。そこで今年度はこの体制を一新して一堂に会する研究発表会を催すこととし、去る3月1日（土）に東北大学川内萩ホールを会場に第1回東北支部研究発表会を開催しました。

今年度の研究発表会には9機関11研究室から参加があり、大学院生、学部生、高専生が計34編の発表を行いました。発表は下記の6セッションを2部屋に分け、発表7分+質疑5分で進行了しました。

- 東日本大震災 司会：川崎興太（福島大学）
- 住宅・人口 司会：長聡子（新潟工科大学）
- 都市計画制度 司会：樋口秀（長岡技術科学大学）
- まちづくり 司会：北原啓司（弘前大学）
- 景観・観光 司会：土方吉雄（日本大学）
- 交通・産業 司会：山口邦雄（秋田県立大学）

なお発表題目については、東北支部のWebサイト「都市計画 in 東北につぼん」(<http://www.tohokucp.sakura.ne.jp/>)をご覧ください。

2. 発表内容の特徴

東日本大震災から3年が経過したこともあり、災害公営住宅の入居者の生活満足度に関する調査、自力再建を行った被災者の移転動機に関する調査、福島第一原発事故からの避難者の生活再建に向けた意向調査など、東北地方の教育機関の地理的な優位さを生かした綿密な調査に関する発表が多数ありました。また、震災の被災者の住宅需要をモデル化し、想定される東海・東南海地震による被災時の住宅需要を推測する研究についても発表がありました。

質疑では「被災者を対象とした調査は、調査被害につながるのではないか」との厳しい意見も出されましたが、発表された研究の大半が実地での被災者への傾聴活動を基本とし、被災者との信頼関係のもとで行われていることが質疑の中で明らかになりました。震災にまつわる教育研究活動の多くが地域貢献活動と一体的に展開されている様子がうかがえ、震災を経験し

た東北地方の教育機関の役割の大きさを改めて実感するものでした。

このほかにも、路線バスの定時運行と降雪量の関係に着目した研究、観光の目玉である朝市の類型化など、東北地方の気候や風土に着目した研究がみられたことも特徴でした。

3. 懇親会

研究発表会後に行われた懇親会には、発表を行った9機関以外からの参加もあり、盛大に行われました。壇上では学生たちによる研究室紹介も行われ、笑いがこぼれる和気あいあいとした雰囲気の中、懇親を深めました。進学を予定している学生たちの間では、11月の学術研究論文発表会での再会を誓い合う姿もみられました。

（文責：小地沢将之／仙台高等専門学校）



写真1 発表の様子



写真2 笑顔あふれる懇親会の様子



写真3 集合写真